

プロジェクト事業報告書

<p>1. 事業の目的</p>	<p>東日本大震災で被災した宮城県・東松島市内を主として、再生リユースバッテリーを提供して復興支援に寄与する。</p>
<p>2. 事業で取り組みたい地域や社会の課題</p>	<p>○被災地には、被災後すぐに災害支援物資として蓄電池が贈られているが、4年を経過し、バッテリーの劣化が懸念されている。また、蓄電池設備が有効に活用されているかどうかは検証がされていない状況である。</p> <p>○大規模災害はまたいつ起こるかわからず、それに対する備えが必要であるにもかかわらず、社会の関心は薄らいでいる。特に停電に対する備えは、ある程度個人で対策できる範囲のところもあるのになおざりにされている。</p> <p>○原発事故に起因して、個人レベルでオフグリッド（電力の自給自足）活動が芽生えてきている。オフグリッドに必要な蓄電池については、コストの問題があり、再生リユースバッテリーの活用が社会的に有益な状況である。</p>
<p>3. 具体的な事業内容とその結果</p>	<p>○野蒜地区バッテリー状況調査 東松島市野蒜地区は、震災後「つながりぬくもりプロジェクト」でバッテリーを提供された（約20世帯分）が、そのバッテリーの状態を診断して問題点を確認する。使用不能な場合、希望があれば代替バッテリーを提供する。また、住民のバッテリーに対する意識調査をアンケートと聞き取りにより実施して今後活用する。</p> <p>【結果】調査の結果、野蒜地区住民は提供された蓄電池システムを十分活用していることが判明した。これは震災後4年も経過しているにもかかわらず意外な結果である。震災後の停電時期（1～2ヶ月間）の不自由さから、大災害時のバッテリーの有益性を認識していることがわかった。このことは、今回の被災地に限らず、国内の各家庭に蓄電用バッテリーを備えることが大切であることを証明している。よって、各家庭のバッテリーは大切に使用されており、予想に反してまだ1～2年は使用できる状態である。</p> <p>○再生リユースバッテリー提供プロジェクト 1 仮設住宅のオフグリッド門灯（チーム東松山手作り）に再生リユースバッテリー、PWL12V24を提供。門灯は被災地の復興住宅にも計画されており、「街を明るくする」活動を今後とも支援していく。PWL12V24は、多数提供する予定。</p>

	<p>2 野蒜地区オフグリッド支援で、FVH150-8 を提供。地区自治会の避難所において、劣化したバッテリーを交換。容量もパワーアップして、長期間の電源を確保できた。また、私設支援施設「奥松島希望のあかり」において、オフグリッド支援で、FVH150-8 を提供。夜間の駐車場の灯りを独立電源で確保した。野蒜地区各世帯への交換用再生リユースバッテリーの提供は、電池の劣化度合いを見て随時交換することとする。</p> <p>3 東松島市キャンプ場へのオフグリッド電源確保のためのバッテリーの提供は、2015年5月に一次分完了。</p>
<p>4. 今後の事業予定と今回の反省</p>	<p>上記 3. の項目へも記載したとおり、今後とも東松島地区支援のための再生リユースバッテリーの提供を続けていく予定である。(オフグリッド門灯用バッテリーを準備中。) 今回のプロジェクトで得た重要な知見を国内全域に広げて行くことが重要な使命であると認識している。</p> <p>【反省】 今回のクラウドファンディングの資金調達において、プロジェクト成立のためにかなり無理をして引換券を用意したため、その費用が大きくなり実際のプロジェクトで使える資金に支障が出た。今後の検討課題である。</p>